

## 27 年間の理事生活を振り返って

大瀧信也

9 年間の牧会生活の後、米国のカベナント神学大学院とトリニティ神学大学院で 4 年余りの学びの機会を与えられて、その学びを終わって帰国したのが、1977 年 8 月だった。その年の 11 月に、私は日本同盟基督教団の小平聖書キリスト教会の牧師に就任した。その翌々年 1979 年 9 月頃、東部部会の西満理事から、現在の書記理事が諸般の事情により辞任となるので、理事会は先生に後任をお願いしたいと思っているので、引き受けてくれないかとお話があり、お引き受けした。その年の 10 月 26 日に、日本基督改革派教会東京恩寵教会を会場にして理事会が持たれ、そこで私の書記就任が認められた。これが私の福音主義神学会の入会であり、理事就任であった。この時は、10 数名の理事が出席しておられたが、その約半数は今は天の主のみもとにおられる。

1980 年 12 月 1 日午後、お茶の水学生キリスト教会館ホールを会場に、第 11 回研究発表会・講演会が持たれ、研究発表会の部で 3 名の会員が発表した。その中の 1 人として私は、「フランシス・タレティンの『赦し』の理解についての一考察」という題で発表した。フランシス・タレティンは英語の発音名で、フランソワ・トゥルレッティーニ (1623-87) のことである。彼は血統的にはイタリア人で、スイスのジュネーブで生まれ、1648 年から死の年まで 39 年間ジュネーブで、イタリア人教会とフランス人教会で牧会し、1653 年から死の年まで 34 年間ジュネーブアカデミーで神学教授を務めた。彼の『神学綱要』(*Institutio Theologiae Elencticae*) は、改革派スコラ主義の最高傑作とされる。彼は、今日の福音主義の一つの源流と言われる。

1980 年末時点で、東部正会員は 138 名、準会員は 30 名だった。同年 4 月の

新理事会の理事の数は 21 名だった。この時は、西部部会が存在しているが、中部部会はまだ存在していない。

1980 年 11 月に出た『福音主義神学』第 11 号には、「パウル・ティリッヒの『赦し』の理解について」という題の私の論文が載っている。この論文で私は、ティリッヒにとって、赦しはキリストの十字架における歴史的な 1 回限りの刑罰的・代理的贖罪によるものではなく、人間の神との再結合によるものである、と述べ、ティリッヒの赦しの理解を批判した。

1981 年 1 月 23 日の理事会で、同年 11 月に予定されていた第 1 回福音主義神学研究会議の東部部会からの準備委員として宇田進氏と私が選出された。

第 1 回神学研究会議の準備委員会が京都福音自由教会を会場にして持たれ、東部部会より 2 名、西部部会より 3 名ほどの準備委員が出席した。

1981 年 2 月か 3 月のある日のことである。この時、西部部会からの準備委員の中に、京都福音自由教会牧師の高橋久之氏と服部嘉明氏がおられた。私は、宇田進氏と一緒に新幹線で東京から京都に行った。準備委員会は午後 1 時頃から夕方遅くまでであったと思う。その日は、宇田氏と私は京都福音自由教会に泊めていただいた。翌日午後私は新幹線で帰京したが、宇田氏のご用がありで、帰りはひとあし先に私 1 人で帰京した。

ここで、忘れることができないことがある。新幹線で京都から東京に近付いた時、私は靴に違和感を覚え、はいていたものをよく見ると、自分の靴ではないことに気づき、しまったと思った。宇田氏の靴をはいていたのである。後日、私は宇田氏の靴を持って小平市にある氏のご自宅に伺いおわびしたことがある。

1981 年夏、全国の会員名簿の作成がなされたが、私は東部部会の書記理事として、東部部会の会員名簿作成にかかわらせていただいた。

1981 年 11 月 16 日から 18 日まで第 1 回福音主義神学研究会議が「かんぽーる京都」で開かれ、東部からは 25 名の会員と 4 名の非会員が出席した。

1982 年 4 月 26 日午後、お茶の水学生キリスト教会館ホールで第 13 回総会が持たれ、この時、東部会員数について、名誉会員は 15 名、正会員は 133 名、準会員は 36 名、計 191 名と報告された。また、理事の改選があり、理事長、書記、総務、会計、各部門担当の理事が選出され、私は書記として再選された。

1982 年 7 月 13 日、中部部会が発足した。

1983 年 4 月 25 日午後から夕にかけてお茶の水学生キリスト教会館ホールで、第 14 回総会・研究会・講演会が開かれた。研究会の部では、「最近の聖書論関係著作を巡って」のテーマで、3 名の会員が同関係著作の紹介と批評をしたが、私はその中の 1 人として、J. I. Packer の *Beyond the Battle for the Bible* の紹介と書評をした。

1983 年 11 月 28 日から 30 日まで、第 2 回福音主義神学研究会議が東部部会主導のもとに、御殿場の東山荘を会場にして行われた。主題は、「今日における福音主義聖書論」だった。

1984 年 9 月 21 日夕に、お茶の水学生キリスト教会館旧館 420 号室で理事会が持たれ、15 周年神学研究会議の準備をした。

1985 年 11 月 25 日から 27 日にかけて、第 3 回福音主義神学研究会議が東部部会の主導で、東山荘を会場にして開催された。主題は「福音主義の聖書解釈と説教」だった。

1986 年 6 月 6 日午後から夕にかけて、第 17 回総会・研究発表会・講演会が、アセンブリー中央福音教会を会場にして行われた。総会では、理事の改選が行われ、私は書記に再選された。

1987 年 11 月発行の『福音主義神学』18 号には、R. H. Schuller の *Self Esteem: The New Reformation* に対する私の書評が載っている。

1988 年 5 月 9 日午後、お茶の水学生キリスト教会館旧館チャペルを会場にして、第 19 回総会・研究会が持たれた。総会では理事の改選があり、私は役員理事である書記に選出された。

1988 年 6 月 20 日に、富坂セミナーハウスを会場にして、理事会が持たれ、東部部会からの全国理事として、丸山忠孝氏と山口昇氏と私が選出された。

1987 年 7 月 27 日に、お茶の水学生キリスト教会館を会場にして、組織神学部会があり、宇田氏が「現代神学の動向」と題して、私は「ロバート・シューラーの人間論」と題して発表した。

1989 年 5 月 29 日午後、名古屋駅近くの愛知県中小企業センターを会場にして、全国理事会が持たれ、東部部会から、山口昇氏と私が出席した。山口氏とは東京と名古屋間の新幹線の 2 時間の旅をご一緒し、神学的会話を行きも帰り